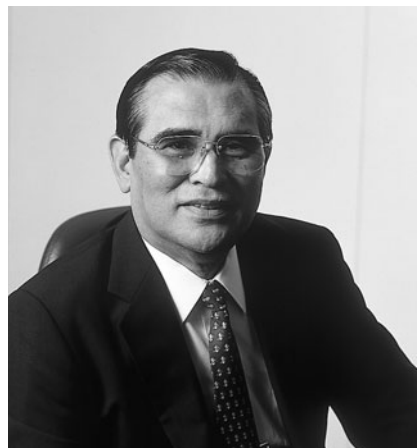

新年を迎えて

代表取締役社長 野澤 俊太郎



新年あけましておめでとうございます。

ケミカルタイムズの読者の皆様、ならびにご執筆の先生方におかれましては、さぞかし良いお正月をお迎えになられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年は、年明け直前の超大型スマトラ沖地震(M9)、想像を超える破壊力に震撼とする心の中にも癒えた頃、盛夏も過ぎやらぬ8月下旬には、米国で史上最悪の被害とされる大型ハリケーン・カトリナが襲来し、また国内でも例年になく多くの台風が矢継ぎ早に通り過ぎるなど、地球規模で進行している重大な気象変化が危惧される酉年でもありました。21世紀の戌年の新年を迎え、是非にも無事で明るい年となるよう期待しています。

長期におよぶ低成長経済を経て、底離れから回復局面へと緩やかに転じた昨年は、愛・地球博(愛知万博)の開催、2年半ぶりとなるスペースシャトル「ディスカバリー」の打ち上げ、日本人宇宙飛行士野口聡一さんの無事帰還など、国民の間にもほのぼのと未来を語り合える明るい出来事にも恵まれました。

わが国の経済情勢では、政府の景気月例報告でも「設備投資や個人消費などの内需を中心に景気は回復が続けている」とし、回復色が一段と高まり企業業績が好転するとの見方ではありますが、エネルギー消費拡大による需給関係の変化やカトリナによる影響から、原油価格は70ドルを突破するに至り、連鎖的なコスト増など先行きを懸念すべき個々の問題もござ

います。また1ドル120円台まで進んだ円安の後押し、そして会計ビッグバンによる内外資金の活発な運用に支えられ、日経平均株価も5年ぶりに15,000円台を回復、デフレ脱却も視野に入り企業業績に好転の兆しが伺えるとはいえ、実感的には業界、業種により個々の悩ましい問題を抱えつつまだ模様を示しながら推移していくように思われます。

弊社は、一昨年11月、60周年を契機に決算日を3月31日とし、関東化学ホールディングスを中心とする関東グループの総合展開力の強化、技術力と総合力の結集、CSRの取組み強化、将来を見据えた投資の断行、海外戦略の展開らの方針を掲げ、社員一丸となり展開してまいりました。長年のやり方・考え方に囚われず、発想の転換を図り、新しいものに挑戦していこうとする新たな時代への心構えでもあります。「我々は未来を考え、新しいものへの挑戦を図り、社会に対し積極的に貢献する」と掲げた弊社の経営理念は、社会的責任を形にしていくCSR活動の精神にもよく一致しており、これをより具体的な活動で展開するためにも、むしろ積極的に導入するに至りました。

科学の進歩を支える化学薬品メーカーとして、最上の品性と、最高の権威と、最大の努力をもって業界の先駆者たる誇りを持ち、常に行動規範を守り行動します、というCSR行動規範を決意とし、社員一同取り組む所存です。

個別には、次の通りです。

- | | |
|----------------|-------------|
| ① 社会的責任の自覚 | ⑥ 化学物質の悪用防止 |
| ② コンプライアンスの徹底 | ⑦ 公正な取引の推進 |
| ③ 信頼される製品の安定供給 | ⑧ 働きやすい職場作り |
| ④ 環境保全活動の推進 | ⑨ 地域社会との交流 |
| ⑤ 保安防災の徹底 | ⑩ 情報開示 |

これらを規範に織り込み、総力を結集し新たな年にチャレンジいたします。

皆様におかれましても、この一年が光輝に満ちた幸多い年でありますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。